

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和 8 年度 第 1 回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事 務 局 (担当課)		参画協働課		
開 催 日 時		令和 8 年 7 月 24 日(金) 午後 7 時から午後 8 時半		
開 催 場 所		川西市役所 4 階 庁議室		
出 席 者	委 員	田中晃代、岩崎恭典、和田真理子、松原利明、久保田啓子、 川瀬美由紀、後藤由紀江、渡辺千尋		
	そ の 他	(オブザーバー) 市民活動センター 赤木牧子		
	事 務 局	小西市長公室長、橋川同副公室長、 長見参画協働課主査、上野同課主事		
傍聴の可否		可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由				
会 議 次 第		1 開 会 2 委嘱状交付 3 議 事 (1) 会長及び副会長の選出について (2) 審議内容、今後の進め方等について (3) テーマに関する意見交換 4 閉 会		

19 : 00～

1 開会

○事務局

配付資料の確認、事務局職員の紹介、オブザーバーの紹介

2 委嘱状交付

○事務局

机上配付にて委嘱状を交付。

任期は、本日令和8年7月24日から令和9年3月31日まで。

3 議事

(1) 会長及び副会長の選出について

○事務局

参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第6条に基づき、会長及び副会長を選出。

事務局から提案することの了承を得て、「会長に田中 晃代委員、副会長に岩崎 恭典委員、和田 真理子委員」とすることを提案し、全委員の承認を得た。

会長、副会長より挨拶。

(2) 審議内容、今後の進め方等について

○事務局

資料2に基づき、今年度の審議内容とテーマ、スケジュールについてを説明。

(3) テーマに関する意見交換

○事務局

資料2の説明の際に、コミュニティの活動に気軽に参加できる、第一歩を踏み出しやすい仕掛けが必要であること、そして、それがどのように届けば参加に繋がるのかということ、視点④を中心として議論していただきたいことはお伝えしました。

参考資料2は令和6年度に推進会議の委員公募をした際のチラシです。公募でこの会議

に参加いただいた委員の皆さんは、このチラシやSNS等での案内を見て、参加してみようという第一歩を踏み出していただきました。その第一歩を踏み出されたきっかけや、参加してみてどんな心境の変化があったのか。また、コミュニティや交付金を知ったうえで、どんな仕掛けがあれば、次の「関わる」という一歩を踏み出せそうかといったことを、お話しただきたいと思います。

公募以外で参加いただいている委員の皆さんも、NPOやボランティア等それぞれの活動に関わることになったきっかけ、そして継続できている理由や、次はどんなステップが必要だと思っているかなど、ご自身の経験でお話しをいただければと思います。

では、ここからの進行は、田中会長にお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○田中会長

今事務局より説明のあったことについて、どんなタイミングでどのように自分のところに届いたから、この推進会議やご自身の活動に参加してみようと思ったのか、そして次はこんな仕掛けがあればステップを進めやすいという部分は、コミュニティがつくる仕掛けや情報発信のヒントにもなると思っています。ご挨拶も兼ねてよろしければ皆さん順番にお話しただこうかと思っています。

○委員

私はコミュニティに関わっているので、ここで皆さんの意見を参考にして、コミュニティのあり方を考える立場でもあります。

私のコミュニティでは、8つの自治会のうち、ほとんどは夏祭りから秋祭りに移行していますが、中には夏祭りに拘って開催される自治会もあり、声をかけていただいたので私も顔を出す予定の夏祭りもあります。

この暑さの中で、役員の方はいろんな準備や運営、もちろん後片付けまでされていますが、それはやはり地域の方に自治会の活動を知ってもらいたい、参加してもらいたいからで

す。特に子どもさんの参加が多いので、盆踊りの練習会も3回くらいされたり、地域の方に喜んでいただけることを企画されています。

それから、コミュニティでは10月にフェスティバルを開催するのですが、コミュニティの活動に参加しようと思っていますかなど、○をつけて簡単に回答できるような、コミュニティに対する意見を聞けるアンケートを、この会議での皆さんの意見を参考として、去年に引き続き実施しようと思っています。アンケートで地域の皆さんの動向を知り、コミュニティの活動に反映できればと思っています。

○田中会長

私は今福島県川俣町のコミュニティの復興ボランティアに関わっています。先ほどアンケートの話がありましたが、学生たちにもアンケートをとって、自分たちの活動を評価しないといけないという話をしたばかりでした。

お祭りとかそういったタイミングでのアンケートは、いろんな人のいろんな状況を知ることができる良い機会だと思います。

○委員

私は、広報誌面で公募を知り応募しましたが、正直一番惹かれたのは報酬なんです。

主人が自治会の副会長をやっていた関係でコミュニティにも関わっていたのですが、自治会とコミュニティが混同していて、この会議に参加してコミュニティと自治会の違いが理解できたと思っています。

もうひとつのきっかけは、私は住職の奥さんをしているのですが、お寺の箱は大きいのに人が集まらないのは勿体ないと感じ、地域の皆さんに場所を開放しようと思い、音遊びや書道、そこから子ども食堂やフリースクールなどを行い、就労体験事業所としてお掃除をしてもらっています。

色々と自分自身でもやるようになってから、市の活動についても興味を持ったことも参加のきっかけです。

実際に参加してみると、吸収できるものがたくさんあります。お寺のいろんな活動も、そ

それぞれの活動は少人数ですが、新しい活動を考えて、手伝ってもらえませんかと声をかけると、ぜひという方が何人かいます。

S N S の発信やチラシ等でも繋がる方はいますが、やはり人が人を連れてくる、声をかけることで、力を貸しますと言ってくれる人が集まってくる状況が生まれているので、その辺りの内容はこの会議でもお話ができる部分なのではないかと思い、またこの会議に参加させてもらうことにしました。

○田中会長

自治会とコミュニティの関係は普段あまり意識をしてないので、説明が難しいというのはあるのかもしれませんが。

ただ家族間で自治会やコミュニティの話をするというのは、すごい効果があると私は思っています。

私も今年自治会の幹事が回ってきて、普段はあまり会話の無いパートナーに会費集めを頼んだりして、話題が増えるのは貴重だと思いますし、子どもたちも地域の活動に関わる親の姿を見るということにも繋がるのかと思います。

○委員

主人も人権擁護委員なども色々とやっていますし、私も老人会とかの困りごとを聞くのですが、その困りごとをどこに繋いであげれば良いのかという知識が無いので、ここでまた色々と学んで、地域に還元したいと思っています。

○委員

私は川西市の公式 LINE を見て応募したのですが、祖母が青少年関係の活動や、自治会にも入っていたりして、なんとなくは知っていたのですが、出かけるとなれば大阪に行ってしまうので、ずっと住んでいる割には、市内では何もしていないと感じ、せっかくなら何か近場で知らないことができたなら楽しいかもという好奇心で応募しました。

何かこれといった理由があるのではなく、本当に好奇心が強かったです。なので、私自身

会議の中で話題に上ったことくらいしか分かっていないですし、実際に地域のイベントなんかにはまだ参加できていないのですが、やってみたいものがあれば参加したいと、軽く情報なんかをチェックしている状態です。

○田中会長

この会議も人との繋がりが広がる機会のひとつになるかもしれませんよね。今お話しにあった好奇心というのは、これは本当にベースとなるものです。好奇心から色んなものが始まっていくのではないかと思っています。

○委員

私も市の LINE でゴミ収集の情報を見ている中で、公募の情報を得たのではないかと思います。そういう意味でも SNS は私のような世代には大きい存在だと思います。

私は仕事で高齢者向けのインストラクターをしている中で、地域との関わりがフレイル予防にも繋がるということを伝えています。ただ、自分はどうかと言うと、仕事があるのでそこまで地域活動に参加はしていないし、子どもが小学生から中学生になった途端、地域との関わりが一切なくなってしまったんですよね。

子どもが小学生の頃は地域でイベントもありましたが、私の住むエリアは自治会も無くなってしまった。でも自分がもし、仕事をリタイアした後や、高齢になり足が動かなくなるとすれば、やはり地域の中で、自分の動ける範囲での行動を考えるとと思います。

ただ、自分は仕事で社会参加してくださいと散々言っている立場なのに、子どもが成長した途端、ご近所の方とお話する機会もなくなってしまったんです。

高齢になると身体を動かすのも大変になることは、仕事を通して分かっていることなので、自分が高齢者になった時を考えると、今この段階から小さな積み重ねをしないと社会参加が難しいと思っていたタイミングに、ちょうど市の LINE でこの会議の公募を知り、少し参加してみようかと思いました。

○田中会長

本当にタイミングってすごく重要なんですよ。何かを思っているタイミングでチラシを見たりすると、気持ちがそちらの方向に流れていくんです。ではそのタイミングって、どんなタイミングなのだろうかと、ふと考えることが良くあります。

確かに子どもが小学校から中学校に上がると、PTAの活動とかの繋がりも極端に減ってしまう。中学校も私学に行ってしまったりと、なおさら小学校区の範囲を越えて会うような機会は無くなると思います。

ただ、子どもが大学生くらいになった時に、たまたま近所のスーパーで懐かしい方に声を掛けてもらって、そこからまた繋がりができる場合もあったりします。

そういった何か人生のタイミングというべきところに、広報が届くタイミングがマッチすると参加にも繋がるのだろうと感じます。

○委員

私の活動しているNPO法人で実施していることの中で、フレイル予防バスツアーは割と反響が大きいです。各地や色々な風景等の映像を流して、その合間に運動をしたりするのですが、来られている方に、今皆さんは社会参加していますよ、ということを伝えています。

そういった事例を踏まえて、コミュニティの仕掛けづくりには、やはりその時に皆さんの関心の強いものをテーマとして取り上げることが大切だと思っています。

また、コミュニティの存在を知らずに通り過ぎてしまう人の中には、隠れた地域の人材もいると思うので、そこを発掘する仕組みも大切なのではないかと思います。

参考資料1の2ページにも、意見を投稿できるような仕様がありますが、こういう仕組みで人材をコミュニティに繋げることができれば良いと思いました。どこに繋がれば良いのか分からずに困っている方がラクになる仕組みは、後継者にとってもプラスになると思います。

声を聞くことのできる工夫をすることが、視点③の誰でも関われるということにも繋がっていると思います。

○田中会長

その時々で関心のあるテーマを取り上げるというお話がありましたが、健康というテーマは今すごくブームなのかと感じます。若い方も健康には配慮するようになりました。

特に高齢者の方は、認知症を気にされていて、今明確なデータは無いのですが、社会参加をすることで、孤立せずに認知症予防にも繋がるのではないかとということも、今色々と検証や調査が進められていると聞きます。コミュニティにも社会的処方のような機能があるのではないかと思いますので、色々な参加を募っていくことは大切に感じます。

○岩崎副会長

何かの活動をしようと思うときには、情報手段も LINE や広報誌など多様で、参加できる活動の選択肢もたくさん用意されている。そしてそれは、できれば小学校区の範囲で、子どもも参加できるような選択肢が多い方が参加に繋がりやすいのだろうと、皆さんのお話を聞いて思っていました。

先日三重県で老人クラブ連合会の研修があり、参加をしたのですが、その事例発表の中で面白いと思ったのが、お年寄り向けなので紙の広報誌なのですが、事細かに老人クラブの行事を中心にレポートを入れてるんですね。個人情報は大丈夫なのかと思うくらい顔写真もしっかりと載っているものを、自治会組織を活用して地域の全世帯配布しているんですね。

個人情報は大丈夫なのか気になる半面、それによって老人クラブの認知度が上がって、楽しそうなことをやってるから、私も参加してみようかな、というところに繋がってるという報告を聞きました。

本当に一歩間違えると怖いものだけれど、怖いから情報をクローズにするとなかなか参加に繋がらない。地域の機関紙に写真は載っていても、顔が映らないようにしたり、分からないような集合写真にすると、やはり親しみが湧かない。許されることならば、顔や名前が分かるというのが一番良いのだと思います。LINE は結構クローズな部分もありますので、うまく活用できる部分があるのではないかと考えています。

ただ、やはりこの辺りの前提となるのは、面識社会がちゃんとできていることなのだと思います。面識社会ができていれば、あの人も参加しているから私も参加しようという動きにも繋がるのではないかと考えます。コロナによってその面識社会が崩れてしまったので、情

報を出すことに気を使わないといけなくなった部分もあると思います。

だからこそ、もう一度小学校区くらいの範囲で、面識社会を作り直すというコミュニティが出てきてほしいと思っています。

次に以前もお伝えしたかもしれませんが、多様性のある選択肢という視点でいうと、庭木の剪定について、老人クラブが自分たちは高齢で綺麗には剪定できないから、ほぼボランティアで作業をするけれど、依頼したお家の方も一緒にやる、一緒にできない方であっても縁側で剪定を見て、お話しをしながら作業をするといったパターンがある。

その他にシルバー人材センターに依頼するパターンと、高木等の本格的な作業は植木屋さんに依頼をするパターンがある。このように同じ剪定でも3つの選択肢が得られる地域というのは魅力的だと思います。やはりひとつしか選択肢がないというのは、少ししんどい部分があるように思います。多様な選択肢があると、どれかの選択肢に引っ掛かる人は出てきやすくなるのではないかと思います。

○和田副会長

皆さんのお話しはすごく参考になると思いながらお聞きしていました。お祭りが住民の接触のきっかけになるというのもそうですし、川西市は大阪の郊外になるので、大阪に行けば何でもできるけれど、あえて近場で何かをしたいという好奇心を持たれる方は他にもいると思いますので、その好奇心が地域と繋がる仕掛けができれば良いと感じました。

隠れた人材の発掘が必要だと言うお話もありましたが、何かやりたいと思っている人は地域にいるのだと感じた事例をお話しさせていただきます。

私は明舞団地や西神中央で調査や研究をしている中で、マルシェやマーケットの開催をしようという動きがあります。キッチンカーのようなものでコーヒーを販売したり、ハーブティを調合して提供される方などが参加されていて、自分のできること、好きなことを持ち寄るかたちで、すでに2回ほどマーケットを開催しています。

今まで自治会活動、コミュニティ活動という言い方をすると出てこなかったような参加や協力が「この場を活用して、地域で何かやりたいことはありますか。」という切り口になると色々と手が挙がるようになってきた。

誰かが楽しいと思ってやっていることが目に見えるようになってくれば、この程度なら手伝えるとか、こんなことで良ければやってみたいという参加が、従来の活動とは異なり出てくるようになりました。

そして、いろんな参加者がいれば、参加者が自ずといろんな情報発信をするようになりますし、先ほどお話しにも出ていた、人が人を連れてくるという部分も大きいので、活動の多様性と見せる多様性も大切なのではないかと思います。

ただ、やはりそこにはマーケットやマルシェのように、なにか温かなお金が回ることで、気軽に参加できることも重要になってくると思っています。

○田中会長

コミュニティをどうしていくのかというのも大事なのですが、その前に自分がやりたいと思っていることを上手く引き出してあげられるような場づくりをしていくことが重要な気がしますね。

小難しい顔をしていると誰も寄ってこないけれど、楽しい顔が見えるように活動しているとみんな集まってくるということですかね。

○和田副会長

そうですね。いろんな人たちが楽しそうに活動していると、それがプラスの循環になってまたいろんな人が来るようになると思います。

○田中会長

何かやりたいことを持ってる人や、心の奥底に眠っているようなことができるようになれば、楽しいの循環になるように思いますね。

あと「温かなお金」という言葉が素敵だと思っていて、お金はあくまでもお金ですが、そこに気持ちを乗せることで、すごい効果を発揮するかもしれないということだと思いました。地域活動で役員に携わっていること自体が、温かい気持ちをもって活動していることだと思うので、そこに報酬があれば、温かな報酬と言えるのかもしれないですね。

皆さんのお話しが一巡したところですが、お話を聞いて何か新たなご意見などはございますか。

○委員

先ほど老人会のお話しがありましたが、老人の人口が増えているにも関わらず、老人会に入る方はすごく減っています。自治会報なんかにも加入しましょうという文言はありますが、知らない、分からないところにはなかなか入りにくい。確かに顔写真があって、そこに自分の知り合いがいれば入りやすいと感じました。個人情報の問題はあると思いますが、そんなアイデアもあることを、今度老人会の会長にもお伝えしようと思いました。

○岩崎副会長

私も学生と一緒に活動をしていて、その活動をPRしたいのですが、やはり顔が映ると色々と問題になってしまう可能性があるのも、学生の後ろ姿ばかりになってしまいます。

確かにSNSで顔をあげてしまうと、全世界に公開してしまうことになります。だからこそ老人会報は紙で発行する代わりに顔を載せますというのは意味がある部分だと思います。

○委員

そもそも老人はスマホを持ってないんです。スマホの使い方講座みたいなものをしようと思ったのですが、老人会でスマホを持っている方が2人だけでした。

持っていると言っても情報も得られて、買い物もネットでできるから楽なのですが、スマホを持っていないと、講習会もできないのであれば、SNSで情報が上がっていても拾うことができないので、やはり老人会は人が人を呼んでこないと思うのだからと思います。

私の地域のコミュニティでは「物忘れカフェ」をやっているのですが、ネーミングが良いのか大勢人が集まっています。なので老人会はその翌週に固定して開催するとみんな忘れないので、「物忘れカフェ」の場で、来週は老人会があるので来てねと声をかけあってもらうような開催の工夫もしています。

○岩崎副会長

そういう話ですと、老人会の定例会を木曜の午前中に開催しているところに、なぜその日にしているのか聞くと、木曜は病院が休診のところが多いから、そこに決めたという話だったので、ちゃんとマーケティングをして参加者を増やそうとしているんだと感じたことがありました。

○和田副会長

明舞団地でも、老人会というネーミングが嫌だという方がいて、活動の内容に関連した名前に変更されたところもありました。

○委員

私のところもシニアカフェという名前です。お茶を飲みながらわいわいお話しをしましょうというだけで、何かしないといけないとなると、やはりちょっとハードルが上がってしまうんですね。お茶を飲んで、お菓子を食べてお話するだけならば、その中で黙って話を聞いているだけでも良いし、1人で家にいるよりは情報収集もできて良いかなという感じで来られる方もいます。

そこをベースとして、少し防災の話や、熱中症予防の話を聞く時間や、歌を聞いたり、簡単な手作業を入れてみたりして、後はおしゃべりの時間という形で、できるだけ来やすくなるような内容でやっています。

この季節なら、何もしなくていいから、家にいると光熱費もかかるし、涼しくしておくので出ておいでといった感じで引っ張り出すようなことや、近い方なら迎えに行くようなこともしています。

○田中会長

お寺というのはコミュニティの基というのか、昔は何か相談事があればお寺に行く、みたいなイメージはありますが、今もいろんな人たちを招き入れる機能を持たれていますね。

○委員

フリースクールをやっている、就労支援の人が掃除してるのを子どもたちが見て、いつも綺麗にしてくれているので汚さないようにしようと思ったり、子ども食堂に来た子どもたちが、大人に見守られながら遊んだり、何か小さな社会みたいになっていると感じます。

他にもお母さん同士がママ友として繋がることは多いと思うのですが、子どもを連れてきたお父さん方がグループ LINE でパパ友として繋がって、お寺の掃除に協力しようと動いてくれたということもありました。

○田中会長

いろんな人が集まってくると、人と人との繋がりが生まれて、副次的な効果も生まれてくるということもありますので、繋がるというのは本当に面白いことだと感じますね。

色々と参考になるお話を聞かせていただきましたが、参考資料 1 の中にこの推進会議としての意見等を反映していくことになるのですが、この推進会議も協働というのがベースにありますので、参画と協働を進めていかないといけない部分があると思っています。

ガイドブックを作るにあたり、事務局としてその辺りは何か考えておられますでしょうか。

○事務局

この参考資料 1 については、あくまでもイメージで、実際にコミュニティの方に使ってもらうことが前提のものとなりますので、こういった形であれば使いやすいのかということなど意見を聞きながら、作り上げていく必要があると思っています。ですので、コミュニティへのヒアリングなど、対話の機会を設ける予定としています。

○委員

私はコミュニティ側の立場として、一応案を見せてはもらっているのですが、これから役員の方にも意見を聞かしてもらおうと思っています。ただ、これをいきなり見た方には難しい内容もあると思うので、これをたたき台として作り上げていけば、参考にさせてもらうこと

がいっぱいあると思っています。

○田中会長

この会議としても、もし参画と協働を進めるという視点で何ができるかということは少し考えていかないといけないと思っています。何か良いご提案があればぜひ教えていただきたいのですが、私が関わっている他市の事例ですと、まちづくりの事例集のようなものを作る際に、モデル事案を掲載しようという動きの中で、委員の方が地域活動をされている方に実際に取材に行くということがありました。

もちろん市役所の方も一緒に行くのですが、委員の方も都合に合わせて順番にいけるところへ行く程度のものですが、私も実際にお話しを聞きに行くと、ここのコミュニティはすごいことをしているな、と思う事例が結構あったりします。

○委員

私のところでは全戸配布する機関紙に一括交付金はどのような仕組みで、いくら交付されているのかということも、皆さんから交付金を知らないというお話しがあったことも踏まえて記載しました。

あとは、お金で釣るという言い方は良くないのかもしれませんが、自治会で実施する秋祭りに、1日お手伝いをしてくれたらお礼、午前中だけのお手伝いならお弁当といった形で高校生に呼びかけて参加をしてもらおうと、高校生の子たちも地域のことを理解するきっかけにもなる。それを続けることで将来的にコミュニティ活動を担う予備軍を育てることになるかもしれません。もちろん地域の高校生だけではないのですが、それぞれが住む地域の中で役立ってもらえたら良いのではないかと思います。

○和田副会長

子どもが成長すると、どうしても親も子どもも地域から離れてしまう。高校生だと少し広域になってしまうかもしれませんが、その辺りで何か離れずに関われる工夫ができれば良いのではないかと思いますね。

○田中会長

学校の授業では一通りのことは学びますが、やはり実際に関わってみないと分からないことが沢山あると思います。現場では色んな人が活動しているわけですから、子どもたちにはその姿を実際に見てほしいという思いがあります。

本日オブザーバーとして参加いただいている市民活動センターの赤木さんは、過去にこの推進会議の委員もされていますし、大学の頃からコミュニティ等についても熱心に学んでおられますが、何かご意見などございませんか。

○赤木センター長

個人的な話になると、自分の原点として、地元の人と、地域の活動の中で育ったので、地域を歩けばみんな顔を知っているような実体験から、大学でもまちづくりを勉強しようと思って色々とやってきたという中で、今も色んなボランティアに携わっているのですが、ここでも「声がかかったからやってみた」という話は良く聞きます。もちろん市民活動センターでもそのような話は良く聞くのですが、声がかかればやってみてもいいかなと思ってる人はたくさんいるけれど、声がかからなければ自分から手を挙げてやる方は本当に少ないと思います。

今日のお話を聞いていて、地域には声がかかればやろうと思う人はいっぱいいるのに対して、声をかけること自体が皆さん苦手なのではないかと思っていました。

広報物をどう綺麗に作るか、どのツールを使うかということよりも、案外声掛けのコツというものが重要なのではないかということは、今まで考えたことがなかったし、確かにそれが一番確かな方法なのかもしれないということを、個人的に考えさせられました。

○田中会長

なかなか人に声かけるのって難しいですね。タイミングもあるし、声を掛けたら嫌な顔をされるのではないかと考えてしまいますしね。そういう人の気持ちが良く分かる人ほど、声掛けをするのは難しく感じるような気がしますね。

それではお時間となりましたので、この辺りで事務局にお返ししようと思いますが、本日は第1回目の会議でもありましたので、少し緊張をほぐすような内容にさせていただきました。今年度の会議の内容や目的などは本日の会議で理解いただけたと思いますので、第2回目以降はもう少し具体的な意見交換をしていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

4 閉会

○事務局

最後に事務局より2点ご連絡させていただきます。

1点目、次回の推進会議は、冒頭でご説明させていただいたスケジュールの通り、10月中旬から下旬に開催を予定しています。1か月前を目安に改めて日程をご連絡させていただきます。

2点目、ご連絡については、昨年度までと同様に、基本的には電子メールで行います。推進会議の資料などお手元で確認いただきたい書類は郵送にてお送りいたしますが、議事録の確認や開催案内などは、基本的には電子メールにてご連絡いたしますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

これをもちまして、令和8年度第1回川西市参画と協働のまちづくり推進会議を終了いたします。委員の皆さま、本日はありがとうございました。

(終了)